

平成28年度 学校評価計画

小美玉市立堅倉小学校 校長 稲毛 精二

1 学校教育目標

確かな学力と豊かな心をはぐくみ たくましく生きる児童を育てる
かしこく なかよく たくましく

2 目指す学校像，児童・生徒像，教師像

学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○明るく笑顔に包まれた温かな学校 ○意欲と活力に満ちた躍動する学校 ○美しく整い，品のある学校 ○連携を大事にする学校（地域・幼・中）
児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○話をよく聞き，よく考え，よく学ぶ子 ○礼儀正しく，心のやさしい子 ○夢や目標をもち，努力する子 ○体を鍛え，明るく元気な子
教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○笑顔で明るく，自主性に富む教師 ○夢や理想をもち人間性豊かな教師 ○一人一人のよさを伸ばそうとする教師 ○子どもの成長を共に喜ぶ教師

3 学校の現状

- 明るく活発な児童が多く，基本的な生活習慣も備わりつつある。道徳や特別活動に力を入れ，互いの良さを認め合い伸ばす指導を重視している。家庭学習の習慣も身に付きつつあるが，学年や教科でのばらつきが見られ，学力面で課題のある児童の割合が高い。
- 教職員は各自の役割を意識し学校運営に積極的に参画している。更に各学年や校務分掌間での連携を深めていく必要がある。校内研修体制も充実し，授業改善が進みつつある。
- 保護者の多くが本校の卒業生であり，学校に対し協力的である。恵まれた学習環境を生かしながら，校舎内外の環境整備に継続して取り組んでいる。

4 前年度の成果と課題

- 前年度は，国語科で「学力向上推進プロジェクト事業に係るプロジェクトチーム訪問校」として，ミドルリーダーを推進役とし研究を進め，学力向上を目指してきた。今年度は国語科の研究を継続し，学び合いやノート指導に力を入れながら表現力の向上を目指す。
- 話し合い活動の充実等により，よりよい人間関係がはぐくまれていく。自主的・自発的な活動を支援し，成功体験を通して自信を深め自己有用感を高めていく。
- 学校だよりの地区回覧やHPの更新，親子会議の開催等により，学校と家庭・地域との双方向の情報のやりとりができるようになってきている。学校支援ボランティアや地域人材の活用を通して地域との連携・協働体制を固め，チーム堅倉としての基盤強化を進める。

5 組織目標

番号	内 容	実 施 期 間				
		2 8	2 9	3 0	3 1	3 2
1	主体的・協働的な学び（学び合い・伝え合う活動）を通して，思考力・判断力・表現力等高め，学力の向上を図る。	○				
2	児童と教師，児童相互の豊かな人間関係を構築するための教育活動を推進する。	○				
3	保護者・地域との連携・協働体制を構築し，信頼される学校づくりを推進する。	○				

平成28年度 学校自己評価書
小美玉市立堅倉小学校 校長 稲毛 精二

1 今年度の取り組みの概要
<ul style="list-style-type: none"> ○ 確かな学力の向上（基礎・基本の定着 学習規律の徹底 学習習慣の定着） ○ 主体的・協働的な学びの充実（授業研究を通じた授業改善 学習支援ボランティアの活用） ○ 豊かな人間関係の構築（自主性・自立性を育む特別活動の充実 読書活動の充実） ○ 健康・体力の向上（体力アップ推進プランの目標達成 業間運動の充実） ○ 信頼される学校づくり（保護者や地域との双方向による情報発信 コンプライアンスの確立） ○ 教職員の資質・能力の向上（OJTを活用した研修の充実 授業研究を中心とした指導力向上）

＜達成度 A：十分に達成 B：おおむね達成 C：達成せず D：課題が残る＞

◎ 達成目標 1 についての具体的な取り組み			
組織目標 1	主体的・協働的な学び（学び合い・伝え合う活動）を通して、思考力・判断力・表現力等を高め、学力の向上を図る。		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
授業の中で、他と関わりながら考えを深め、表現する活動の充実を図り、児童の思考力・判断力・表現力等の能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支持的学級風土を基盤にして学び合う分かる授業づくり ・ 専門性を生かした教科担当制の実施 ・ TTによる指導やICTの活用等による個に応じた指導の充実 ・ 家庭学習の手引きの活用、パワーアップ週間の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で進んで課題に取り組み、勉強したことが分かる回答した児童の割合 88.1% ・ 書く・話し合う力がついてきたと回答する児童の割合 86.0% ・ 家庭学習に決められた時間取り組んでいると回答した児童の割合 79.2% 	B
互いに信頼し合う、温かい人間関係づくりに基づく、指導法の工夫・改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミドルリーダーを推進役とした研究体制の確立 ・ 外部講師を招聘しての授業研究及び研修会の開催 ・ 学年ブロックや研究部を中心とした指導案検討会や授業反省会等校内研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修が授業力向上や資質向上に役立っていると回答する教師の割合 94.5% ・ 児童が基礎的な学力を身に付け、自ら学び、進んで学習に取り組めるような指導を行っている回答した保護者の割合 90.7% 	A

◎ 達成目標 2 についての具体的な取り組み			
組織目標 2	児童と教師、児童相互の豊かな人間関係を構築するための教育活動を推進する。		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
児童が自主的・主体的に活動を工夫し、楽しみながら協力し合って取り組む係・委員会活動、学校行事を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級活動での話し合い活動の充実。 ・ 発達段階に応じた自主的・自発的な係・委員会活動（スペシャルイベント企画）の推進。 ・ 異学年交流の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校が楽しいと回答した割合 児童 91.4% 保護者 95.5% ・ 係・委員会活動をみんなと協力して楽しく行うことができていると回答した児童の割合 90% 	A
互いに相手の身になって考え、支え合い励まし合える心の居場所としての学級経営を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳や特活を中核にした人権教育の推進（言語環境の整備・いじめをなくそう集会等） ・ 読書活動の充実（朝の読書や読み聞かせ・学校図書館の活用） ・ いじめアンケートの毎月実施。 ・ 帰りの会等で、互いの良さを認め合える場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童理解に努め、児童が心身共に安定した状態で、充実した生活ができるよう支援したと回答した教師の割合。 86.0% ・ 先生は、いじめや悪いことをしたときは、きちんと指導してくれると回答した割合。 児童 92.0% 保護者 88.1% 	B

◎ 達成目標 3 についての具体的な取り組み

組織目標 3	保護者・地域との連携・協働体制を構築し、信頼される学校づくりを推進する。		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
保護者等の立場に立った質の高い情報提供を行い、信頼関係の構築に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者等のニーズに応じた学校だより等の各種通信の発信。 ・ ホームページの定期的な更新。 ・ 緊急時メール配信システムの活用。 ・ 子どもの変化を見逃さない保護者との情報連携。 ・ 学校評価の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校は教育活動等の様子について情報提供をしていると回答する保護者の割合 97.8% ・ 学校だよりを月1回発行する。 ・ 親子会議を年間5回開催と結果等の情報提供。 ・ ホームページ「学校ニュース」の毎日更新。 	A

2 今年度の成果と次年度に向けた課題

- 理科教育推進事業に係る小学校教科担任制モデル校として、高学年を中心に理科、社会、音楽、図工で教科担当制やT・Tを取り入れた。また、研究テーマ「相手や目的に応じて書く力を育む国語科学習指導の在り方」のもと、学年ブロックを中心に校内研修を充実させ、全学級で年1回は授業公開を行った。学び合いを意識し、授業改善に取り組んできたことで、授業力も向上しつつある。授業では、進んで課題に取り組み、勉強したことが分かったと感じる児童の割合が88.1%であった。しかし、茨城県学力診断のためのテストの結果を見ると、学年や教科でのばらつきが見られるとともに、学力の2極化の傾向も出てきている。児童の考えを引き出す発問や板書構成等を工夫し、基礎基本の定着を図るとともに、身に付けた知識や技能を活用する力を向上させることが課題である。
- 「堅倉小学校版 家庭学習の手引き」の活用や、「ことばんく」「〇〇あれこれ」コーナーの設置等により、家庭学習の習慣が身に付きつつある。家庭学習に決められた時間取り組んでいる児童の割合は79.2%であるが、高学年になるほど割合が低下する傾向にある。個人差に対応した家庭学習の進め方の指導や、授業中においても各教科のノート指導の充実が課題である。
- 支持的学級風土を基盤にした授業づくりと温かな人間関係づくりを学級経営の両輪と考え、道徳や特活を中心に互いのよさを伸ばす指導を重視してきた。学校が楽しいと回答する児童の割合が91.4%と、学校や学級が心の居場所と感じられる様子がうかがえる。特に、ふれあい祭りや委員会活動におけるスペシャルイベント企画では、6年生を中心に自主的・自発的な活動が多くみられ、児童の自己有用感や達成感等を高めるよい機会となっている。児童、保護者のアンケート、教職員自己評価ともに、あいさつや返事に課題が見られた。家庭や地域の協力を得ながら、実践力を高めることが課題である。
- 学校だより等の発行と併せて、毎日HPの「学校ニュース」を更新し、児童の活動の様子をタイムリーに届けることを心がけてきた。緊急時メール配信システムは、毎月配信状況を確認し、必要な情報が洩れなく届くよう体制を整えた。的確な情報発信を行い、保護者には概ね満足いただいている。今後も、学校評価アンケート等を通して、保護者からの多様な意見を受け止め、誠実に早期対応をしていく。

3 保護者や地域の皆様へ

学校教育目標「確かな学力と豊かな心をはぐくみ、たくましく生きる児童を育てる」の実現に向けて、「主体的・協働的な学びを通して思考力・判断力・表現力を高める授業づくり」「児童と教師、児童相互の豊かな人間関係を構築するための教育活動の推進」「保護者・地域との連携・協働体制を構築を通じた信頼される学校づくり」の3つ柱を立て各種教育活動を推進してまいりました。

一つ目の「思考力・判断力・表現力を高める授業づくり」については、校内研修を通して授業改善を図ってまいりました。児童の学習意欲の向上や基礎基本の定着に少しずつ成果が見えています。さらに校内研修を充実して学力向上に努めてまいります。

二つ目の「豊かな人間関係の構築」については、道徳の時間や特別活動、学校行事等、体験活動を重視してまいりました。互いの良さを認め合う機会を大切にしながら、豊かな心をはぐくんでまいります。

三つ目の「信頼される学校づくり」については、アンケートや皆様からの直接のご意見を生かした学校運営に努めております。今後も、学校だよりやHP等の内容を充実させ様々な情報を発信してまいります。

29年度も、保護者の皆様、地域の皆様の声を大切にしながら職員一同努力してまいりますので、今後ともご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。